

真珠 100 年の謎をついに解明



— 日本が開発したアコヤガイ真珠養殖技術を初めて科学的に証明 —

「アコヤガイの真珠層を作る組織を切り出し、別のアコヤガイに核とともに移植し、核の周りに真珠袋を形成させて真珠を作らせること」は、100 年以上前に日本で開発された画期的な技術で、現在も広く普及しています。しかし、移植した組織が真珠層を作っているのか証明されていませんでした。

水産総合研究センターと麻布大学、三重県水産研究

所は、真珠の形成に関わる遺伝子を調べ、移植後 18 か月目まで、移植した組織の遺伝子が働いていることを確認しました。これで、移植した組織が真珠を形成していることが初めて科学的に証明できました。

今後は、遺伝子を目印とした良質な真珠を生産できるアコヤガイの開発が期待されます。

真珠ができるまで

日本で開発された画期的な技術

